

八街市 実践的防災教育総合推進事業

「自助・共助の意識の下に的確に行動できる人材を育成し、災害に強い学校とまちづくりに役立つ態度の育成を図る」

八街市教育委員会 学校教育課 043-443-1446

指導主事 鈴木 浩明

1 実践事業

- (1) 災害ボランティア活動の推進
- (2) 防災に関する指導方法の工夫

2 事業概要

「自分の命は自分で守る」ことの重要性和災害が発生した場合、どのように住民が助け合っていくのか、一人一人が「自らのこと」として防災意識を高め、主体的に行動する態度を育成する。

また、中学生が災害ボランティア活動を通じて育んだ「自助・共助・公助」の知識や技術を、地域の一員として貢献できる人材育成を目指す。

3 実施概要

実施時期	計 画 事 項	参加者
6/6	○第1回実践委員会の開催 ・今後の活動予定について	市教委 社会福祉 実践委員
6/21 ～ 6/22	○第1回 被災地派遣ボランティア活動 (吹奏楽部演奏)	防災アドバイザー 市教委 教職員 PTA 生徒 社会福祉
7/2	○被災地派遣ボランティア校内報告会 (北中体育館)	教職員 全校生徒
10/10	○校内事前会議 (概要検討)	教職員 社会福祉
10/23	○第2回実践委員会の開催 ・今後の活動予定について	市教委 社会福祉 実践委員 防災アドバイザー

実施時期	計 画 事 項	参加者
11/1 ～ 11/2	○第2回 被災地派遣ボランティア活動 (支援物資・奉仕活動)	防災アドバイザー 市教委 教職員
11/7	○校内被災地派遣ボランティア報告会 (北中体育館)	教職員 生徒
11/28	○市内福祉・一般市民・教育関係者に向けて活動報告会の開催	市長 教育長 防災アドバイザー 社会福祉 市教委 教職員 PTA 生徒

4 実践委員会

	氏 名	所属および
1	會澤純一郎	防災アドバイザー
2	三橋 貴司	県教育庁北総教育事務所指導主事
3	齋藤 勝美	市社会福祉協議会長
4	綿貫 敏宏	市社会福祉協議会事務局
5	井上諄一郎	八街北中学校区連絡協議会会長
6	加瀬 宏	八街北中学校校長
7	岩本 秀視	八街北中学校教頭
8	小山 則夫	八街北中学校教務主任
9	林 誠一	八街北中学校研究主任
10	田邊 友基	八街北中学校安全主任
11	小川 勝義	八街北中学校PTA会長
12	野口 和代	八街北中学校PTA副会長
13	佐藤 明	八街北中学校PTA副会長
14	勝田 敏彦	八街市教育委員会学校教育課長
15	鈴木 浩明	八街市教育委員会学校教育課指導主事

5 具体的な取組

(1) 第1回実践委員会

平成25年6月6日(木)

16:10～ 於 八街北中学校

①協議等

ア 事業説明及び役員を選出

イ 協議「今後の活動予定について」

- ・訪問災害地の決定
- ・ボランティア活動日及び行程
- ・活動内容について(吹奏楽部演奏)
- ・参加人員について

(2) 第1回被災地派遣ボランティア活動

平成25年6月21日(金)～22日(土)

災害地: 宮城県石巻市周辺

参加者数: 生徒45名、引率者12名

視察場所①南三陸町合同防災庁舎

②石巻市立大川小学校

③石巻市開成団地(仮設住宅)

1,142戸



①行程

- | | | |
|------|-------|------------------------------------|
| 6/21 | 21:00 | 八街北中学校 発 |
| 6/22 | 7:30 | 南三陸町合同防災庁舎視察 |
| | 8:30 | 石巻市立大川小学校視察 |
| | 9:45 | 訪問仮設
全体式
北中吹奏楽部が交流を兼ねて
演奏 |
| | 11:45 | 全体式 |
| | 12:00 | 昼食 |
| | 13:00 | 学校へ向け出発 |
| | 21:00 | 帰校・解散 |



②事後指導

ア 作文方式による活動報告書の作成

(作成項目)

- (ア) なぜこのボランティアに参加しようと思ったのか。
- (イ) 被災地を視察してどのような感想を持ったか。
- (ウ) 活動を体験して感じたことは何か。
- (エ) これからできること、しなければならないことは何か。

イ 校内及び市内への報告講演会の開催

- (ア) スライドショー画像の作成から発表
- (イ) 代表者による感想の発表
- (ウ) 画像を含んだ掲示物の作成
- (エ) 発表を聞いての在校生の感想と感想文の掲示



(3) 第2回被災地派遣ボランティア活動

平成25年11月1日（金）～2日（土）

災害地：宮城県石巻市・東松島市

参加者数：生徒21名、引率者10名

視察場所①南三陸町防災合同庁舎

②石巻市立大川小学校

③東松島市宮戸島月浜仮設団地
34戸



①行程

- | | | |
|------|-------|--------------------------|
| 11/1 | 21:00 | 八街北中学校 発 |
| 11/2 | 7:00 | 南三陸町合同防災庁舎視察
(献花・焼香) |
| | 8:00 | 石巻市立大川小学校視察
(献花・焼香) |
| | 10:00 | 仮設住宅にて活動
お手伝い「何でもやり隊」 |

ア 南三陸庁舎跡地や石巻市立大川小学校を訪れての現地学習

災害発生時「自分の身は自分で守る」ことの重要性と発生からどのように住民が助け合い、生活していたのか、現地の方々の話から具体的に学んだ。復興がままならない現地へ足を運び、現地の方々との関わりから防災の手立てや、災害にみまわれても力強く、たくましく活動できるために求められる「共助」の理念と実際に学ぶことの意義を理解できた。

イ 支援物資の配布

支援米・野菜ジュース・落花生・野菜菜の花の種（31箱）

ウ「何でもやり隊」の活動

- ・場所 東松島市宮戸島月浜仮設団地（34戸）
- ・時間 午前10:00～11:30
- ・お手伝いの内容
窓ふき 草取り 床ふき 肩もみ
風呂そうじ



事前に現地ボランティア団体の方のコーディネートを受けて、ニーズを調査し、「何でもやり隊」の活動を実施した。

この活動を通して、生徒は広く奉仕の精神を養い、「自助・共助・公助」の知識や技術を学ぶことができた。また、支援者「共助」としての視点から、ボランティア活動を通じて、地域の一員として貢献する意識を高めることができた。



②事後指導

ア 作文方式による活動報告書の作成 (作成項目)

- なぜこのボランティアに参加しようと思ったのか
- 被災地を視察してどのような感想を持ったか。
- 活動を体験して感じたことは何か。
- これからできること、しなければならないことは何か。

(4) 一般市民・教育・福祉関係者に向けて 活動報告会の開催

平成25年11月28日（木） 午後1時～
於 八街市中央公民館
出席者、市長をはじめ市内各官庁、教育、福祉、安全協会等の諸機関及び一般市民約500名

ア スライドショー画像の作成から発表 イ 防災アドバイザーとのシンポジウム テーマ

「被災地に心を寄せて」

コーディネーター

市社会福祉協議会事務局

綿貫 敏宏 氏

コメンティーター

宮城県石巻市社会福祉協議会災害復興支援
課地域福祉アドバイザー

瀧寄 博 氏

宮城県塩竈市民ボランティア

「希望」代表 會澤純一郎 氏

パネリスト

八街市立八街北中学校 生徒 2名

八街市舞踊連盟 会長 飯高しづ子 氏



ボランティア活動後に行われた報告会では、参加した多くの生徒たちから、「ボランティア活動に参加して良かった」という感想が寄せられた。また、この活動を通して、社会づくりに貢献しようという意識も高まった。

コメンティーターの防災アドバイザーからは、「被災地でのボランティア活動は、自分を見つめること。自分の生き方を発見すること。見て聴いて、そして考えて」と、ボランティア活動の意義等について述べられた。

6 成果と課題

【成果】

- 復興がままならない現地へ足を運び、現地の方々との関わりから、災害にみまわれても力強く生きている姿を、実際その大地に立って見ることは絶大なる説得力を感じることができた。
- 被災地を訪れたことで、一人一人が災害を自分のこととして考え、防災やボランティア活動への関心が高まった。
- 実際にボランティア活動を行い、自分たちも役に立つことができるという達成感を得ることで、社会のために「気づき、考え、実践できる」という意識が高まった。
- ボランティア活動を通じて学んだことを全校生徒や保護者、地域の人たちに発表する場を設けることで、社会づくりに貢献する意識を高めることができた。

【今後の課題】

- 生徒たちが支援者「共助」の視点から、災害ボランティア活動を通じて育んだ知識や技術を、今後地域の一員として貢献できるよう、学校・地域・関係機関が連携した学校防災体制の充実を図る必要がある。
- 今後、東北への災害ボランティア活動を継続した取組としていくためには、予算措置について課題がある。多くの生徒がボランティアに参加したいという思いが強いのに反して、生徒を絞ってボランティア活動に参加せざるを得ないのが現状である。さらに、教育課程上での位置づけなど、工夫していかなければならない。

八街市としては、これからも今回の実践を活かし、息の長い取組と自助・共助の意識を高めた防災教育の推進を充実させたい。

